

平成20年11月6日

第137号

発行所 広島県歯科医師連盟  
広島市中区宝町5-30 TEL (082) 241-8020  
ホームページ http://hpdpf.jp  
編集兼発行人 栞田博昭



KEEP 20 TEETH TILL YOUR 80



8020運動

80歳で20以上の自分の歯を保ちましょう

# 総選挙では地元与党議員を!!

## 第103回日歯連盟評議員会

9月19日(金)午後1時より、新歯科医師会館「1階大会議室」にて、第103回日歯連盟評議員会が開催され、第1号議案から第6号議案まですべて承認可決された。また石井みどり参議院議員より「発言は与党であるからこそ出来るのであって、総選挙では地元の与党議員を応援して頂きたい」と熱く要望があった。

蒲生洵副会長による開会の辞の後、雨宮淳評議員(茨城県)および吉田公典評議員(熊本県)の2人が議事録署名人名に指名された。井上裕元参議院議長他325名の物故会員に対する黙禱に続いて永山一行日歯連盟会長による挨拶が行われた。「ご多忙の中、全国からご参集頂き、また大久保日歯会長、新井衆議院議員、石井参議院議員にもご出席頂き感謝している。突然の首相の辞任は



第103回日歯連盟評議員会(9/19)

大変遺憾であり納得いかないが、総裁選挙後、解散総選挙も近いと思われる。米国の大手証券会社(リーマン)・保険会社(AIG)などの破綻や農水相の辞任など政府の力量が問われている時期であるからこそ政権与党がしっかりとした施策を行う必要がある、何としても選挙に勝って頂きたい。また、本年度から各都道府県においてはデントルミーティングを開催して頂いているが、我々の現状を理解している議員と接し非常に効果的であると思う。また我々は現在、歯科と格差、レセプトオンライン化、社会保障費の抑

与謝野両氏は、社会保険費は削減しないと明言しているの期待したい。また、次期比例代表単一候補の選考については困難であるかもしれない。新井悦二衆議院議員の報告に続いて石井みどり参議院議員は「日本の医療は崩壊寸前であり、特に疲弊した歯科医療を立て直していかねばならないが、診療報酬の改定の際でも、税調での発言も与党であるからこそ出来るので、総選挙ではどうか地元の与党議員を応援して頂きたい。また、9月24日、第2回の国民歯科問題議員



政権与党には何とんでも勝って頂きたい

制、公益法人改革、歯科医師需給問題そして口腔保健法の制定など多くの問題を抱えているが、残りの半年の任期の中で戦略を立てながら次の執行部への道筋をつけたい。また、この度の次期比例代表単一候補の選考ができたことは甚だ残念であるが、来年の3月までには臨時評議員会を開催してでも決定したいので皆様方のご協力を賜りたい」と挨拶した。

続いて、来賓の大久保満男日歯会長は「麻生、2回の国民歯科問題議員



総選挙では地元与党議員を

連盟総会を予定しており、口腔保健法の制定へ向けて応援団を作りたい」と熱く語った。続いて、前副議長である福岡県歯連盟の評議員変更による副議長欠員に伴い、議事の第1号議案である副議長の出が評議員会の進行上先行して上程され、茨城県の鈴木明夫評議員が執行部の推薦を受けて承認された。新副議長の出、就任挨拶の後、平成20年度日本歯科医師連盟褒賞授賞式が執り行われ、個人6名と団体2連盟(北海道・京都府)が表彰された。休憩を挟んで報告に移り、渡邊敏弘理事長より会務報告が、永山一行会長より時局報告が、村田憲信副理事長より会計報告が、そして竹内昌司常任監事より監査報告がそれぞれ行われた。報告を受けて質疑応答に入り、会務運営関連の7つの事前質問(終身会員の認定年齢の設定について、会費未納者の取扱いに



本山栄荘日歯連盟理事と山科透果歯連盟会長

ついて 2200億円削減撤廃運動について調査研究部門の活動について日歯連盟の組織強化策について 政権政党の移動 2大 政党時代における政権交代時の対応について)が順次行われ、執行部よりそれぞれの質問に対する回答が行われた。引き続き議事に移ったが、第1号議案を除く第2号議案から第6号議案までが上程され、それぞれ承認可決された。第2号議案 平成19年度一般会計収支決算、第3号議案 平成19年度政治活動運営会計収支決算、第4号議案 平成19年度運営基金積立金会計収支決算、第5号議案 平成19年度役員退職金積立金会計収支決算、第6号議案 平成20年度一般会計収支補正予算) 次いで協議が行われ、(1)次期参議院議員選挙については、比例代表単一候補者の選考基準についての事前質問が出ており、執行部よりそれに対する回答がなされ、今までの規程で行う旨の説明があつたが、「規程を一部改正(第7条および第8条)して前回の選挙委員会に立候補した7名を含む形で再選定をして頂きたい」と、また、「執行部はもつと確固たる姿勢で臨んでほしい」との意見が多数出され、これに対して執行部も評議員の方々の意見・要望を踏まえた上で対処していく姿勢を明らかにした。 続いて、(2)時局対応について、(3)その他などについて協議され、最後に秋山治夫副会長による閉会の辞により全日程を終了した。

